



＜体も心も育てる足育＞

12月5日(木)、区内や都内の幼稚園や小学校、保育園の先生方、港区教育委員会の方々、遠くは福岡、徳島からも幼児教育関係者を大勢お迎えし、2年間積み重ねてきた足育の実践報告会を開催しました。改めて保護者の皆様のご協力にお礼申し上げます。ありがとうございました。



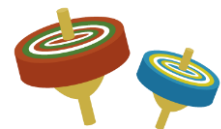
園庭の樹木や起伏などを生かした運動遊びが長時間よく続いている姿、いろいろな場や多様な遊具を使ってごっこ遊びが充実してきている姿などを、ここ数年の園内研と足育の取り組みの成果としてご紹介しました。靴の脱ぎ履きに象徴される日々繰り返す小さな行動にも「心を留めて」行うことが、人や物、出来事に対する姿勢に大きく関わってくることを私たち教師自身が再確認できたこと、それを発信できたことも大きな意味がありました。ということは、子どもたちにあれこれ言う前に、我々大人自身がどう行動しているかを振り返る必要があるかもしれませんね。

＜中学生との温かな交流＞

12日(木)には、恒例となっている青山中学校3年生を迎えての交流活動がありました。初めて出会う大きな中学生約60人に、最初はびっくりした年少児もいました。各学級に分かれて家庭科の保育の授業としてフェルトで作ってきてくれた魚で魚釣り遊びをさせてもらったり、鬼ごっこやボールで一緒に遊んでもらったりしました。最後に集まったときには、すてきな合唱も聞かせてもらい、そのきれいな歌声とハーモニーに子どもたちも感動していました。今年の3年生は、幼児の目線に合わせて話を聞いたり、思いに寄り添って動いてくれたりすることがとても上手にできていて、感心しました。帰りの際には、しっかり名前を覚えていて、名残惜しそうに手を振り合う姿もあり、地域に新しい仲間ができた素晴らしいひとときとなりました。

＜自立の構えの育ちどき＞

幼稚園教育要領に続き、来年4月からは新しい小学校学習指導要領が全面実施となります。これらの教育課程の改革の柱は、今後の社会の大きな変化に対応する力を育てることです。大人に言われたようにしか動けない、指示待ち人間には、日本の将来を託すことができません。年少児も幼稚園に通い始めてすでに半年以上が過ぎ、身支度を自分でする構えなどが随分身に付いてきました。大人がいつまでも手を掛け過ぎては、せっかくの自立の芽を摘んでしまいかねません。まずは、バラ門ですっきりと「行ってらっしゃい」と送り出してもらうこと、自分で始末しやすい洋服を着せるなどの配慮が自立を促します。貸与されている上履きを「教材としての靴」と位置付けているものも、自分でできる仕掛けが工夫されているからなのです。



＜当たり前のことを丁寧にする＞

幼稚園でも家庭でも、自分の事は自分でする、みんなの役に立つことを進んでするなど、当たり前のことを丁寧にすることを改めて心掛けていきましょう。年長児は、あと数か月で1年生となります。幼稚園のホームページの「教育委員会からのお知らせ」欄に、「みなときっすなびカレンダー」も紹介されています。ぜひご活用ください。健康や安全に気を付けて、楽しい冬休みを過ごし、全員が元気に新年を迎えたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。